

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2694 号

Relationship between labral length and symptoms in patients with acetabular dysplasia before rotational acetabular osteotomy

寛骨臼回転骨切り術前の寛骨臼形成不全患者の関節唇長と症状との関係

白銀 優一 (しろがね ゆういち)

博士 (医学)

#### 論文内容の要旨

寛骨臼形成不全では非寛骨臼形成不全と比較し、関節唇が長いことが多数報告されているが症状との関係性については評価されていない。本研究の目的は、寛骨臼形成不全患者における関節唇の長さや症状との関係を明らかにすることであった。2017年10月1日～2021年8月31日の間に寛骨臼回転骨切り術を受けた寛骨臼形成不全患者218名の中から53名を対象とし、日本整形外科学会股関節疾患評価質問票(JHEQ)による術前症状、股関節正面X線写真による骨形態パラメータ、MRIによる関節唇長を計測し、JHEQスコア、骨形態パラメータ、関節唇長の間でSpearmanの相関係数を算出した。また、重回帰分析を用いてJHEQスコアと関節唇の長さの予測変数を求めるための重回帰モデルを作成した。結果、骨形態パラメータとJHEQスコアの間には相関関係はなかった。一方、前方関節唇の長さは、JHEQスコアと相関があった(JHEQ疼痛サブスケール[r(95%信頼区間(CI))] = -0.335 (-0.555, -0.071), P = 0.014]、JHEQ動作サブスケール[r(95% CI) = -0.398 (-0.603, -0.143), P = 0.003]、JHEQメンタルサブスケール[r(95% CI) = -0.436 (-0.632, -0.188), P = 0.001]、JHEQ総合点[r(95% CI) = -0.451 (-0.642, -0.204), P = 0.001])。重回帰の結果、複数のモデルにおいて、前方関節唇の長さはJHEQサブスケールと独立して関連していた。さらに、年齢、Acetabular index、JHEQ総合点は、すべてのモデルで前方唇長と独立して関連していた。以上から症候性寛骨臼形成不全の患者における関節唇長、特に前上方領域は患者の症状と関連していた。関節唇長は、股関節の累積的な不安定性の重症度を評価するために使用できる重要な客観的画像所見である可能性が示唆された。